

1. 黒斑病抵抗性系統‘ 清水白桃RS’ の結実性（情報）			
[要約] 中度の黒斑病抵抗性を示すとして品種登録申請中の‘ 清水白桃RS’ は着果不足になるほどではないが、清水白桃に比べて結実が少ない。			
研究室名	果樹研究室	連絡先	0869- 55- 0276

## [背景・ねらい]

新病害のモモ黒斑病に対する耐病性品種の育成を目的に、清水白桃に放射線照射を行ったところ黒斑病抵抗性を示す系統（清水白桃RS）が得られた。この系統は果実品質は清水白桃と差がないが、結実が少ないようなので確認する。

## [成果の概要・特徴]

1. 平成13年度には、清水白桃RSの原木の結実率は、30%に達しなかったが、清水白桃は60%を超えた（表1）。
2. 平成14年度でも清水白桃RSの原木及び複製樹は20%前後であったが、清水白桃は約50%であった（表2）。
3. 複製樹の3年生若木で比較しても、清水白桃RSの結実率は清水白桃の半数であった。
4. 現地における清水白桃RSの結実率も清水白桃のほぼ半数の26%であった（表3）。
5. 清水白桃RSの花粉発芽率は約90%に達し、清水白桃との差は認められなかった（表4）。
6. 結実状態を達観で観察したところ、樹内で一部に偏ることはなかった。

以上のことから、清水白桃RSは清水白桃に比べて結実が劣るので、摘蕾は軽度に留める。しかし、樹内で結実が偏ったり、結実不足になることはなく、摘蕾の省力化につながる可能性もある。

## [成果の活用面・留意点]

1. 摘蕾は行わないか、上向きの蕾を取る程度にとどめる。
2. 摘蕾程度を間違える恐れがあるため‘ 清水白桃RS’ と清水白桃の混植は望ましくない。
3. 平成13年12月3日付けで品種登録申請した。

[具体的データ]

表1 ‘清水白桃RS’ と清水白桃の結実率（農試 平成13年）

	花数(花数/枝)	結実数(個/枝)	結実率(%)
清水白桃RS	29.5	8.2	27.8
清水白桃(在来)	27.8	18.6	66.9

表2 ‘清水白桃RS’ 原木と複製樹と清水白桃の結実率  
（農試 平成14年）

	樹齡	中果枝(%)	長果枝(%)	平均(%)
清水白桃RS・原木	5	20.5	19.2	19.8
清水白桃RS・複製1	4	13.4	22.9	18.2
清水白桃RS・複製2	4	25.0	28.8	26.9
清水白桃(在来)	7	45.3	47.1	46.2

表3 現地試験中の‘清水白桃RS’ と清水白桃の結実率  
（現地 平成14年）

	樹齡	中果枝(%)	長果枝(%)	平均(%)
清水白桃RS	4	27.3	22.8	25.5
清水白桃(在来)	5	59.9	52.8	57.1
有意差 <sup>2)</sup>				**

<sup>2)</sup> マクネマー法により検定。\*\*は1%水準で有意

表4 ‘清水白桃RS’ と清水白桃の花粉  
発芽率（平成14年）

	発芽率(%)
清水白桃RS	88.6
清水白桃(在来)	90.1
有意差 <sup>2)</sup>	n. s.

<sup>2)</sup> マクネマー法により検定

[その他]

試験研究課題・事業名：放射線照射によるモモの新品種育成

予算区分：県単

研究期間：平成13～14年度

関連情報：平成11年度 試験研究主要成果「ガンマ線照射によって得られた黒斑病抵抗性‘清水白桃’」